こうちミュージアム
ネットワーク通信
2022 VOL.19

目次 CONTENTS

●土佐の文化財
高知県立坂本龍馬記念館　三浦夏樹「龍馬が特に愛した脇差」P1
●随想「指定管理者の交代と新出発」……P2
●会員紹介「土佐清水ジオパーク推進協議会」「高知地域資料保存ネットワーク」「中村時計博物館」「津野町立図書館」……P3
●特集：高知県に現存する自然史科学標本の情報収集調査P4～5
●コラム「日本博物館協会全国大会高知大会」……P6
●「リョーマの休日キャンペーン」連携事業・「廃藩置県150年」‥P6
●特集：「いろんな「とら」大集合!!」……P7
●会員一覧……P8

土佐の文化財

◈龍馬が特に愛した脇差

▲脇差　備前長船勝光・宗光合作

刃長　五二三cm
銘　表　備前國住長船二郎左衛門尉勝光左京進宗光
　　裏　永正二年八月吉日
（※永正二年＝一五〇五年）

室町時代末期、「末備前」に分類される刀匠たちの中で最も位が高い二郎左衛門尉勝光（甥）と左京進宗光（叔父）による合作。

二郎左衛門尉勝光は、父・右京亮勝光の跡を継いで一家を率いており、父の二歳年下だった左京進宗光が支えた。徳川家康が持っていた右京亮勝光（父）と左京進宗光合作の脇差は、現在日光東照宮に保管されており、国の重要文化財に指定されている。

龍馬が持っていた脇差は、刀身に「八幡大菩薩」「五大力菩薩」と彫られている。昭和四（一九二九）年に東京で「土佐勤王志士遺墨展」が開催された際、この脇差も出品されており、坂本家にはこの時の出品目録控が残っていた。そこには、当時の坂本家当主坂本弥太郎の筆で「此刀ハ龍馬ガ特ニ愛セシモノ也」と記されている。しかし、この脇差は展覧会以来、坂本家でも忘れ去られてしまった。そして、平成二七（二〇一五）年に行われた当館などの調査により、坂本家ご子孫宅で八六年振りに再発見され、令和二（二〇二〇）年に当館へ寄贈された。

（高知県立坂本龍馬記念館
学芸員　三浦夏樹）

随想

指定管理者の交代と新出発

高知市立龍馬の生まれたまち記念館　学芸員
森本 琢磨

龍馬の生まれたまち記念館　外観

高知市上町にある「高知市立龍馬の生まれたまち記念館」は、令和四（二〇二二）年四月一日、新しい時代を迎える。平成二十（二〇〇八）年以来、当館の現指定管理者が担ってきた役割を新指定管理者が継承するのである。本誌が発行される頃には、その新体制が始まっていることだろう。本稿では、新旧指定管理者に対する私見を述べさせていただく。

指定管理者制度とは、「公の施設」を地方公共団体に代わって民間企業や財団法人が経営できるというものだ。市町村が担う仕事に民間の力が加わることで、その利点を生かせるというメリットがあり、事実、現指定管理者が参入してからの当館は、大きく発展した。よりよいサービスを追求する「民間感覚」があったからこそ、飽くなき企画立案や情報発信ができたのである。

現指定管理者が当館を経営した十四年の中には、いくつか大きな波があった。その中でも、平成二十二年の大河ドラマ「龍馬伝」と同二十九年から約二年間にわたった「志国高知・幕末維新博」は、特筆すべきだろう。前者は、高知県下に空前の龍馬ブームを呼び、当館にも連日大勢の観光客が押し寄せた。後者は、「明治維新百五十年」をテーマとした博覧会で、これに合わせて当館はリニューアル工事を行い、より磨きのかかった施設へと生まれ変わった。これらの観光キャンペーンへの対応には苦労も多々あったが、官民一体の力があったからこそ、乗り切ることができたと考えている。

中庭の像（坂本乙女・坂本龍馬・近藤長次郎）

だが、当館に課せられる「博物館」としての要求もまた、年々多様化しており、この十四年間は、それに応えていくことへの難しさも痛感した。例えば、当館は資料を保存・展示するための設備が決して潤沢とは言えず、収蔵庫もすでに飽和状態である。ゆえに、せっかく寄贈の話をいただいても、断らねばならないこともあった。ハード面におけるこれ以上の整備が望めない以上、資料の保存について今後どのような体制を作っていくかは、当館の恒久的な課題といえよう。

新指定管理者は、外食産業や福祉施設等を手広く展開している大企業である。事業の中には、「道の駅」やホテルなど、地域活性に寄与するものもあり、そのノウハウは、当館の経営に必ずやプラスに働くだろう。特に、当館は博物館と公民館の両機能を兼ね備えた施設なので、公的サービスに多彩な実績を持つ企業の力は、頼もしいかぎりだ。

2 階常設展

一方で、「高知市の文化拠点を県外企業に任せて、そこに地元愛はあるのか」という声もある。たしかに、当館は、地域密着を重視してきた施設であり、それゆえの恩恵は大きい。これまで当館がお世話になった方々の間に、「県外企業では馴染めない」という声が発生する可能性も、ゼロではないだろう。しかし、そうした意見も汲み取りつつ、人と人、人と地域をつなげていくのも、博物館の役割である。ミュージアムネットワークの皆様には、新体制となった当館に対し、今後とも心温かいご指導・ご鞭撻を賜れば幸いである。

会員紹介

土佐清水ジオパーク推進協議会

ジオパークは、地球科学の視点から、大地やそこに成立した生態系、人の暮らしや文化を守り、活用することで社会の持続可能な発展を目指すプログラムです。ユネスコの正式事業として世界44か国で取り組まれており、日本でもその理念に準じて取り組みがおこなわれています。土佐清水ジオパークは令和3年9月に44地域目の日本ジオパークに認定されました。

土佐清水ジオパークは高知県土佐清水市を領域とし、日本列島が誕生したころの時代を記録した竜串海岸や、その後のマグマ活動がつくりだした足摺岬など、大地の変動の軌跡を感じることができるダイナミックな地質・地形が特徴です。この大地が黒潮と出会うことで、美しい海岸風景や豊かな自然をもたらし、漁業や節づくりなどの産業や海と共に生きる暮らしを育んできました。このように、大地は自然や暮らし、文化の土台となるもので、多くの恩恵を与えてくれます。一方で、地震や水害など、ときに災害を引き起こすものでもあります。土佐清水ジオパークでは、大地の遺産をはじめとする地域資源を保全し、研究や教育、産業へ活かしていくことで、大地への理解を深め、大地に寄り添ったよりよいまちづくりに生かしていくことを目指しています。

（土佐清水ジオパーク推進協議会　事務局　酒井満）

土佐清水ジオパーク推進協議会

高知地域資料保存ネットワーク

高知地域資料保存ネットワーク（高知資料ネット）は、地域の歴史資料の記録・保存を支援する民間のボランティア団体です。２０１６年に住民有志や大学研究者らが、行政や博物館など公的機関が対応しきれない家庭や地域の資料の散逸を防ぐため、高知戦争資料保存ネットワークとして設立し、２０２１年には高知地域資料保存ネットワークに改称しました。

主な活動は、毎月第２火曜日（「高知地域資料保存ネットワーク」のフェイスブックページを要確認）に高知市民活動サポートセンターで開催している定例会です。定例会には、原則資料の所蔵者にも参加いただき、メンバーと一緒に資料の記録や整理を行っています。高知資料ネットは収蔵施設を持たない団体で、資料の受け入れはしていません。記録した資料は、クリーニングをして中性紙封筒に入れるなどの保存処理を施し、資料目録・撮影データとともに所蔵者に返却しています。

記録した資料は、連携するオーテピア高知図書館で目録集やＤＶＤの形でデータを公開していますので、ご利用いただけましたら幸いです。廃棄や散逸のリスクのある歴史資料を何とか残したいとお考えの方がおりましたら、保存を支援いたしますので、ご相談ください。

（高知地域資料保存ネットワーク　楠瀬慶太）

高知地域資源ネットワーク

中村時計博物館

中村時計博物館は、南国市後免町の中村時計店に併設される形で平成10年にオープンいたしました。国内、海外から蒐集した２０００点を超える様々な機械式時計、腕時計や工具、資料等を展示しております。珍しいものや懐かしいもの、今となっては使われる事も少なくなってしまった古い時代のものや技術に触れることで、長い歴史の中で人類が培ってきた技術の発展の流れを知ることができます。

当館の目玉の一つである、今から１００年以上前に使われていたドイツ製の航海用船舶時計マリンクロノメーターは揺れる洋上でも時計の水平が保たれるように工夫がなされており、機械式時計には避けて通ることの出来ない姿勢差（時計の向きによって進み具合が変わってしまう現象）を軽減しています。精度を求める様々な工夫や当時最先端であった工作技術の粋をご覧いただけます。

また、ＣＮＷ（公認上級時計師 Certified Master Watchmaker）、一級時計技能士による技術及び歴史に関する解説から、私たちがかつて過ごしてきた時間や、もはや体験し得ない古い時代に想いを馳せることの一助になれれば幸いです。

（中村時計博物館　中村拓也）

中村時計博物館

津野町立図書館

津野町にはふたつの図書館があります。葉山地区のかわうそ館（平成25年開館）と、東津野地区の虎太郎館（平成26年開館）です。両館とも各地区の中心部にあり、役場などで手続きのついでなどにも立ち寄りやすく、町営シャトルバスが周回しているので、運転しない方でも利用しやすい図書館です。

館内では、『図書館カフェ』でコーヒーや冬季限定（11～3月）の津野山茶を提供し、温かい飲み物と読書で寛いでいただいています。幼少期から身近にいつでも本がある環境を提供できるよう、こども園や学校と連携をとって、おはなし会、読み聞かせ、学級文庫・移動図書館や授業支援資料の貸出などを行い、子どもたちに本を届ける活動を続けています。また、地域や学校で読書リーダーを担う子どもたちの育成を目指し『子ども司書養成講座』を毎年開催しています。

地域へも出向いていき、診療所、公共施設、集落活動センター、放課後子ども教室へ本を貸出し、町のあらゆる場所で図書館の本を手に取ってもらえるよう活動しています。

町民の生涯学習の場、集いの場、憩いの場となる図書館づくりにこれからも取り組んでまいります。

（津野町立図書館　田部和美）

津野町立図書館

特集

高知県に現存する自然史科学標本の情報収集調査

はじめに

近い将来、高知県産の自然史科学標本、特に生物標本の行先を模索する事態がやって来ます。これらの多くは個人収集標本で、現在の高知県の生物標本保管施設と体制の状況からみると、高知県外へ流出する可能性が極めて高いと考えられます。

流出が予想されるこれらの標本の中には、高知県レッドデータブック２０１８動物編で絶滅や絶滅危惧に指定されている種も含まれ、改訂したレッドリストランクを判断した証拠となる物です。本来であれば、これらの標本は高知県が適切な保管施設と体制を組んで永続的に管理すべきと考えますが、そのような状況は高知県にはなく、維持管理はレッドデータブック改訂事業に参加した個々の調査員に担って頂いている状態となっています。調査員の中には、様々な理由で現在の保管状況を今後どのくらいの期間維持できるかを心配する声が上がってきています。

そこで、現在高知県内にどのような自然史科学標本があるのか、その量や保管管理の状況はどうなっているのか、今後どの程度の期間現状を維持できるのかを調べましたので、紹介します。

なお、本活動は「令和３年度高知県豊かな環境づくり総合支援事業費補助金」へこうちミュージアムネットワークから申請して実施しました。

調査の方法

情報の収集のために、聞き取り調査を２０２１年７月１日から９月30日にかけて実施しました。対象者は「高知県内在住で生物標本を所有している個人、団体」としました。対象者には電話もしくはE-Mailにて調査の申し入れを行い、所有している標本を拝見させていただきながら情報を得るようにしました。

聞取り項目は、所有している標本の分野、標本の形態、現在の所在地、所有者名・連絡先、採集データの有無、標本点数、収蔵に必要な体積、現状のまま維持できそうな期間、その他としました。

さらに高知県が、標本を保管するために必要な設備を有し、標本を適切に管理できる人材を配置した県立自然史博物館的な施設を設置した場合、「博物館活動に協力する意思があるか？」についても、お聞きしました。

調査の結果

1. 調査先

（1）市町村別調査先／18市町村・67件
（所有者別59件・コレクション別71件）

市町村	訪問数	市町村	訪問数	市町村	訪問数
高知市	24	四万十市	2	いの町	1
室戸市	7	香南市	1	仁淀川町	1
南国市	3	香美市	4	越知町	2
土佐市	3	馬路村	1	津野町	3
須崎市	2	芸西村	1	大月町	4
土佐清水市	6	大豊町	1	黒潮町	1

（2）分類群別コレクション数／132コレクション（約235,000点）

分類群	件数	分類群	件数	分類群	件数
哺乳類	28	甲殻類	10	寄生虫類	3
鳥類	18	貝類	15	地衣類・菌類	2
爬虫類	9	昆虫類	18	化石類	4
両生類	5	サンゴ類	3	その他	2
魚類	8	ウニ・ヒトデ類	7		

高知県沿岸で採集された日本有数のサンゴ標本コレクション

2. 現状のまま維持できる期間

（1）10年以上／48件（約16万点）
※維持できる期間が10年以上と回答された中には、年齢70代以上の所有者が9件含まれる。

（2）10年以内／11件（7万点以上）
※うち5年以内の所有者が6件ある。

（3）維持できない理由は、所有者の高齢化、保管場所の維持が困難、容器の劣化、適切な保管管理知識を有する人材不足等。

足摺岬沖で採集された甲殻類と貝類の標本

3. 調査標本の形態別の保存空間

（1）乾燥標本　2，294㎥（850㎡約縦34×横25×高さ2.7m）

（2）液浸標本　377㎥（140㎡約縦14×横10×高さ2.7m）

計2，671㎥（990㎡）

※いずれの標本形態でも保存には紫外線・温度の対策が必要で、更に乾燥標本の場合、湿度・虫害・カビの対策が必要となる。

4. 5年以内・10年以内に対応の検討を要する標本の保存空間

（1）乾燥標本　321㎥（120㎡約縦10×横12×高さ2.7m）

（2）液浸標本　37㎥（15㎡約縦3×横5×高さ2.7m）

計　358㎥（135㎡）

5. 調査を実施して

・多くの分野の生物標本が、高知県内には存在する。

・そのうちの多くが、近い将来どうなるかわからない。

・個人所有の人々の多くが、高知県に収蔵庫ができることを望んでいる。

・ただし、収蔵庫（箱もの）だけが整備されても、管理活用できる人材がいなければ、置き場所が変わるだけで、根本的な解決とはならない。

・収蔵庫に加え、保管管理、活用できる人材の確保が重要。

これから

上記の調査結果に加えて、「高知県が県立自然史博物館的な施設を設置した場合の協力の意思の有無」については、多様な生物分野の標本が寄贈、寄託および随時貸出などで多くの方から協力が見込まれることもわかりました。

その情報を高知県と情報共有するとともに、広く県民に普及啓発して、高知県内の自然史科学標本について今後どのように扱って行けば良いのかについて、様々な立場、地域の方々と検討するための機会をつくっていこうと考えています。

（横倉山自然の森博物館　谷地森秀二）

約50年間にわたって室戸岬周辺で収集されたチョウ類標本コレクション

四国随一の哺乳類骨格標本コレクション

コラム

日本博物館協会全国大会高知大会

昭和二八年（一九五三）年に始まった日本博物館協会全国大会は、毎年開催地を変えながら全国各地で歴史を重ねてきた。昨年度（神奈川）、本年度（北海道）も、新型コロナウィルス感染拡大のため、変則的ながらも対面式で開催された。通例としては三日間の開催で、初日に基調講演や全国博物館フォーラム、二日目に分科会やシンポジウムを行い、大会決議文を採択して主要行事は終了、最終日はエクスカーションとして、開催地の文化施設等の見学会を実施する。

大会テーマの下、分科会やシンポジウムでは、時宜に応じた話題、博物館をとりまく課題、先進館の活動報告等、日々の活動や将来計画に益する内容が工夫される。

そして、来年度の第七〇回全国大会は、高知県で初めて開催されることが決定した。日本博物館協会では高知県支部がないため（四国支部あり）、我々こうちミュージアムネットワークと共催という形式で開催することになった。

開催は令和四年一一月一六日～一八日の三日間で、メイン会場は県民文化ホール、分科会会場として高知県立高知城歴史博物館、オーテピアこうち図書館を予定している。

一一月には、北海道大会に代表団を派遣、引継ぎ挨拶を終え、早速実行委員会（二十館）を立ち上げ、基本方針や組織についての検討を始めた。今後、大会の具体を検討するプロジェクト委員会や当日のスタッフとして協力をお願いするサポーターメンバーを組織し、文化や観光関係の行政、あるいは産業界などとも連携して、大会の充実と全国からの参加者のおもてなしの準備を進める予定である。

決して規模は大きくないが、高知には個性的な博物館が数多くある。そして、それが公立・私立、理系・文系・芸術といった枠を超えて緩やかに連携したミュージアムネットワークはあまり他に類を見ない組織である。全国大会開催にあたり、高知の多様な文化活動を全国に発信すべく、会員各位の積極的協力をお願いしたい。

（高知大会実行委員長
高知県立高知城歴史博物館　渡部　淳）

令和3年度（2021）活動報告

【企画調整部会】
・総会　5月14日
・幹事会　4月9日・7月1日・10月1日・12月10日・2月22日
・「こうちミュージアムネットワーク通信」の編集
・リョーマの休日キャンペーン「廃藩置県150年」事業

【研修教育普及部会】
・情報交換会　5月14日
「県政の記録を未来へ
～高知県立公文書館の取組み～」
武田啓子（高知県立公文書館）
「学校資料を考える会の活動」
楠瀬慶太（高知県の学校資料を考える会）
「佐川地質館の現状と課題」
森浩嗣（佐川町立佐川地質館）
「高知市立自由民権記念館企画展『言葉をつくった時代』について」
汲田美砂（高知市立自由民権記念館）
・研修会
「スマートフォン等を使った動画作成・編集」11月25日
・見学会
「高知市立自由民権記念館」5月14日
「高知県立公文書館」11月25日
・児童クラブに関する情報提供
・「こうちミュージアムネットワーク専門的職員名簿2021」作成
・高知市広報「あかるいまち」コラム「歴史万華鏡」リレー掲載
・小津高校SSH事業への協力（5年目）

【地域資料調査部会】
・歴史・文化・自然史資料の保存・継承に関する取り組み
・高知県の自然史標本の情報を県民と共有するための事業

【新入会員】
（令和3年4月～令和4年3月）
・土佐清水ジオパーク推進協議会
・高知地域資料保存ネットワーク
・まんが王国・土佐情報発信拠点
高知まんがBASE
・高知県文化生活スポーツ部　まんが王国土佐推進課
・むろと廃校水族館

「リョーマの休日キャンペーン」連携事業・「廃藩置県150年」

高知県自然・体験型観光「リョーマの休日」キャンペーンに連携し、令和3（2021）年が、廃藩置県、高知県発足150年であることから、これをテーマとして連携事業に取り組みました。

【冊子】高知県令・知事や高知県出身で県外の県令・知事を務めた人物をまとめた冊子を制作・配布しました。11月23日の高知県政150年記念式典 県史編さん開始記念シンポジウムでも配布しています。

【展示】館と地域の特色を意識した展示を次のように企画していただきました。宿毛市立宿毛歴史館、宿毛まちのえき林邸「地方長官を歴任した宿毛の人物群像」、高知市立自由民権記念館「高知県ができたころ」、安田まちなみ交流館・和「石田英吉VOL.3―勤王の志士から高知県知事へ―」、佐川町立青山文庫「家老家からみた廃藩置県」、高知県立高知城歴史博物館「廃藩置県150年　藩が消えた日～四国の廃藩置県～」、高知市立龍馬の生まれたまち記念館「龍馬の遺志を継いだ男　高知県知事・丸岡莞爾」

【巡回講座】廃藩置県の意義や高知県出身知事の事績、地域の歴史資源の魅力などをテーマに県内6会場で出張講座を開催しました。会場は本山町プラチナセンター、窪川四万十会館、宿毛市立文教センター、佐川町立桜座、高知県立高知城歴史博物館、安田町文化センター、登壇者は会員館学芸員延べ16名（内会員外に依頼2名）参加者は延べ143名となりました。

【龍馬パスポート】キャンペーンの一環として龍馬パスポートにも参加できることとなり、レアスタンプを14館で展開し、集客を図りました。

これらの事業を、コロナ下ではありながらも感染対策等に配慮し進めることができました。参加者からは、おおむね好評をいただいたところです。

幕末維新に比較すると地味なテーマでしたが、こうした地道な取り組みが、地域の歴史に対する理解を深めるうえで重要であることを再確認しました。

（高知市立自由民権記念館　筒井秀一）

いろんな「とら」大集合!!

2022年の干支「とら」にちなみ
さまざまな「とら」の記事を各館から寄せていただきました。

越知町立横倉山自然の森博物館

トラツグミ

全長30cmくらいのスズメ目ツグミ科の鳥です。体色は黄色と黒の虎模様で、オスもメスも同色です。その模様からトラツグミ（虎鶫）という名前をもちます。本州、四国、九州に分布し高知県では繁殖も越冬も行う留鳥で、平地から低山の森林で暮らし、おもに地上でミミズや昆虫、カタツムリ、木のみなどを食べます。夜間によくとおる声で「ヒィー、ヒョー」と鳴くことから、この声は妖怪「鵺（ぬえ）」だと思われていました。

安芸市立歴史民俗資料館

安芸國虎書状

安芸で「とら」と言えば、安芸國虎です。戦国武将、國虎に関する資料は残念ながらほとんどなく、唯一と言っても過言ではないのがこの國虎書状です。長宗我部元親との最後の攻防を目前にひかえた永禄12年（1569）7月7日に出されたもので、士気を高めるために出された感状（戦功をほめるために出す文書）で、國虎の花押が書かれています。このほか國虎の長男、千寿丸の書状も含めた國虎書状5通が今に伝わっています。

横山隆一記念まんが館

「虎の目」横山隆一

水彩画540×395mm

4コマまんが「フクちゃん」等で知られるまんが家・横山隆一ですが、油彩画もたくさん描いています。この作品の制作時期は不明ですが、「（油彩画を描いて）楽しくなってきたのは80歳を過ぎてから」、「漫画の場合は、いかに相手に分かってもらうかだが、油絵は自分の考えが表現できればそれでいい」とインタビューで答えています。小さいながらも、のびのびと描かれたこの虎は、80歳代以降の作品だと思われます。

わんぱーくこうちアニマル ランド

スマトラトラ

今年の干支の寅、当園では現在、小型のトラであるスマトラトラを飼育しています。その前は8亜種あるトラの中で最大の亜種であるアムールトラを飼育していましたが、残念ながら2017年に死亡しました。その頭骨は骨格標本として、肉食獣と草食獣、雑食獣の違いを説明する園内でのワンポイントガイドや、学校や公民館での出前授業（動物のからだの不思議）、12年に1度開催される寅年特別展などを通して役立っています。

高知県立坂本龍馬記念館

吉村虎太郎書簡

吉村虎太郎は、多くの自筆書簡に「虎太郎」と署名しています。しかし、当館所蔵の書簡には「寅太郎」と署名しており、「虎」と「寅」の両方の文字を使用していたようです。虎太郎の文字は非常に特徴的で、勢いのある右上がりの文字には、意志の強さや行動力溢れる人柄がにじみ出ています。この書簡は京都から父母に出したもので、武市半平太からの依頼を伝え、追伸では弟・熊弥の近況を尋ねています。

香美市立美術館

石川寅治『造船所』

1964年／F100号

石川寅治は、明治18年（1875年）に高知市に生まれその後、上京して画塾不同舎に入り、やがて太平洋画会を結成します。文展の常連作家になり後に無鑑査となり、文展、帝展、日展に不動の地位を築きました。土陽美術会の世話人もつとめ、昭和28年日本芸術院恩賜賞受賞しました。名前の寅にふさわしい土佐人のバイタリティーを見せて昭和39年に89才で生涯を終えています。

高知県立高知城歴史博物館

山内容堂所用印 万巻書一尊酒

鈕（持ち手）に虎を表わした15代土佐藩主山内豊信（号：容堂）の印で、印面は「万巻書一尊酒」とあります。中国・明代の文人董其昌の画論『画禅室随筆』の一節「読万巻書　行万里路」を踏まえたもので、原典では、多くの書を読み、遠く旅すれば、心の中の塵濁が消え、自ずと理想の山水画が成るものだ、と続きます。これに対し容堂は、万巻の書は読むが、万里を行く代わりに「一尊（一樽）の酒」で済ませるのだ、と洒落ているのです。

高知県立美術館

山本昇雲《虎図色紙》

後免出身で、日本画家・挿絵画家として明治～昭和初期にかけて活躍した山本昇雲による虎の色紙。昇雲の義理の兄であり支援者でもあった博文館の重役、杉山常次郎の家に伝わったものです。昇雲はこのような色紙を年賀状や手土産として親しい人に向けてよく描いていたそう。それにしても、昇雲と言えば柔らかいタッチで描かれた子どもや女性の絵が有名ですが、こんな劇画調（？）の虎を描くこともあったとは驚きです！

高知県立文学館

田岡典夫草稿「虎の口」

作家の田岡典夫は高知市育ちで、田岡嶺雲の甥にあたります。高知の作家・田中貢太郎と出会って文学の道に進み、「強情いちご」他で直木賞を受賞しました。「虎の口」は、戦時中召集されるも検査で順番を取り違えられ、病気と勘違いされて解放されたことを典夫らしい軽妙な筆致で書いた作品です。ユーモアのある作品ですが、当時の典夫は40歳近い年齢であり、また、病気の人まで招集されていた状況が明かされ、戦局の深刻さがうかがえます。

高知県立歴史民俗資料館

土佐凧 寅

山﨑茂氏寄贈郷土玩具コレクションより

土佐凧は、正方形の角を立てた形の凧で、魔除けの赤を地色に金太郎や鶴などが描かれています。干支も図柄のひとつで、本品は初代が絵金に師事したという香南市香我美町の吉川染物店四代目、故吉川登志之氏の作です。「牡丹に唐獅子、竹に虎」は絵になる取り合わせの例えですが、本品も竹に虎。虎縞を力強く墨で描き、毛の一本一本まで巧みな筆遣いで表現しており迫力満点です。

むろと廃校水族館

トラウツボ

毎年、各地の水族館や動物園は干支にちなんだ生物にスポットを当てます。今年はトラウツボも注目されました。水族館はゆっくりとした動きの生物も人気です。ウツボも筒に入ってじっとしているため人気です。更に高知では食材としても……。ウツボと言えば鋭い歯。トラウツボも常に鋭い歯を見せつけていますが、実はアゴが湾曲して口を閉じることができません。この話をすると、呆気にトラれる方がたまにいらっしゃいます。

高知県立牧野植物園

虎の名前がつく植物「虎杖」

高知の春を告げる山菜といえばイタドリ。漢字で書くと「虎杖」となり、虎の文字が入っています。和名の由来は、葉を揉んで傷につけると痛みがとれることから、痛み取りがイタドリになったそうです。一方、漢字の虎杖は中国名によるもので、茎の斑紋を虎の模様に見たて、茎を杖にしたとのこと。この語義に疑問を投げかけたのが清少納言です。『枕草子』にある「見るとたいしたことないのに、文字に書くと大げさになるもの」の一つにイタドリを挙げ、「虎は杖などなくても大丈夫という顔立ちなのに」と述べています。

●こうちミュージアムネットワーク　会員一覧●

（団体会員のみ）

施　設	施　設　名	郵便番号	住　所	電話番号
東　部	安芸市立書道美術館	784-0042	安芸市土居 953 番地イ	0887-34-1613
	安芸市立歴史民俗資料館	784-0042	安芸市土居 953 番地イ	0887-34-3706
	絵金蔵	781-5310	香南市赤岡町 538	0887-57-7117
	香美市立美術館	782-0041	香美市土佐山田町 262-1 プラザ八王子 2F	0887-53-5110
	香美市立やなせたかし記念館	781-4212	香美市香北町美良布 1224-2	0887-59-2300
	香美市立吉井勇記念館	781-4247	香美市香北町猪野々 514	0887-58-2220
	北川村立中岡慎太郎館	781-6449	安芸郡北川村柏木 140	0887-38-8600
	キラメッセ室戸　鯨館	781-6833	室戸市吉良川町丙 890-11	0887-25-3377
	芸西村文化資料館・筒井美術館	781-5701	安芸郡芸西村和食甲 1262	0887-33-2400
	高知県立のいち動物公園	781-5233	香南市野市町大谷 738	0887-56-3500
	香南市文化財センター	781-5453	香南市香我美町山北 1553-1	0887-54-2296
	金剛頂寺霊宝館	781-7108	室戸市元乙 523	0887-23-0026
	創造広場アクトランド	781-5233	香南市野市町大谷 928-1	0887-56-1501
	民間非営利団体 高知文化財研究所	782-0016	香美市土佐山田 1645	0887-52-0736
	室戸ジオパーク推進協議会	781-7101	室戸市室戸岬町 1810-2 室戸世界ジオパークセンター内	0887-22-5161
	むろと廃校水族館	781-7101	室戸市室戸岬町 533 - 2	0887-22-0815
	安田まちなみ交流館・和	781-6421	安芸郡安田町安田 1674-1	0887-38-3047
	龍河洞博物館	782-0005	香美市土佐山田町逆川 1424	0887-53-2144
中　部	いの町紙の博物館	781-2103	吾川郡いの町幸町 110-1	088-893-0886
	いの町立吾北中央公民館	781-2401	吾川郡いの町上八川甲 2010	088-867-2133
	越知町立横倉山自然の森博物館	781-1303	高岡郡越知町越知丙 737-12	0889-26-1060
	高知県の学校資料を考える会	781-8104	高知市高須 3 丁目 3-11	090-2780-3775
	高知県文化財団	781-8123	高知市高須 353-2	088-866-8013
	高知県文化生活スポーツ部文化振興課	780-8570	高知市丸ノ内 1 丁目 -2-20	088-823-9790
	高知県文化生活スポーツ部まんが王国土佐推進課	780-8570	高知市丸ノ内 1 丁目 -2-20	088-823-9711
	高知県立高知城歴史博物館	780-0842	高知市追手筋 2 丁目 7-5	088-871-1600
	高知県立公文書館	780-0850	高知市丸ノ内 1 丁目 1-10	088-856-5024
	高知県立坂本龍馬記念館	781-0262	高知市浦戸城山 830	088-841-0001
	高知県立大学総合情報センター図書館	780-8515	高知市永国寺町 2-22	088-821-7129
	高知県立図書館	780-0842	高知市追手筋 2 丁目 1-1	088-823-4946
	高知県立美術館	781-8123	高知市高須 353-2	088-866-8000
	高知県立文学館	780-0850	高知市丸ノ内 1 丁目 1-20	088-822-0231
	高知県立埋蔵文化財センター	783-0006	南国市篠原 1437-1	088-864-0671
	高知県立牧野植物園	781-8125	高知市五台山 4200-6	088-882-2601
	高知県立歴史民俗資料館	783-0044	南国市岡豊町八幡 1099-1	088-862-2211
	高知市文化振興課	781-9529	高知市九反田 2 ー 1 高知市文化プラザかるぽーと 8F	088-821-9215
	高知市春野郷土資料館	781-0304	高知市春野町西分 340	088-894-2805
	高知市民図書館	780-0842	高知市追手筋 2 丁目 1-1	088-823-4946
	高知市立自由民権記念館	781-8010	高知市桟橋通 4 丁目 14-3 高知市総務部民権・文化財課	088-831-3336
	高知市立龍馬の生まれたまち記念館	780-0901	高知市上町 2 丁目 6-33	088-820-1115
	高知城懐徳館 (高知城管理事務所)	780-0850	高知市丸ノ内 1 丁目 2-1	088-824-5701
	高知地域資料保存ネットワーク	780-8520	高知市曙町 2-5-1 高知大学人文社会科学部小幡尚研究室	090-5272-8852
	高知みらい科学館	780-0842	高知市追手筋 2 丁目 1-1 オーテピア 5 F	088-823-7767
	子どものための民具体験館	780-0861	高知市升形 5-29	088-822-1764
	佐川町立佐川地質館	789-1201	高岡郡佐川町甲 360	0889-22-5500
	佐川町立青山文庫	789-1201	高岡郡佐川町甲 1453-1	0889-22-0348
	四国自然史科学研究センター	785-0023	須崎市下分乙 470-1 新荘公民館内	0889-40-0840
	すさきまちかどギャラリー / 旧三浦邸	785-0004	須崎市青木町 1-16	050-8803-8668
	竹林寺宝物館	781-8125	高知市五台山 3577	088-882-3085
	定福寺豊永郷民俗資料館	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0305
	土佐市立市民図書館	781-1102	土佐市高岡町乙 3451-1 つなーで 2 階	088-852-3333
	中村時計博物館	783-0011	南国市後免町 1 丁目 5-26	088-864-2458
	認定特定非営利活動法人高知こどもの図書館	780-0850	高知市丸ノ内 1 丁目 1-10	088-820-8250
	平和資料館草の家	780-0861	高知市升形 9-11	088-875-1275
	まんが王国・土佐 情報発信拠点 高知まんが BASE	780-0850	高知市丸ノ内 1 丁目 1-10	088-855-5390
	本山町立大原富枝文学館	781-3601	長岡郡本山町本山 568-2	0887-76-2837
	横山隆一記念まんが館	781-9529	高知市九反田 2-1 高知市文化プラザかるぽーと内	088-883-5029
	よさこい文化協会	780-0928	高知市越前町 2 丁目 14-9	090-8978-8219
	藁工ミュージアム	781-0074	高知市南金田 28 アートゾーン藁工倉庫	088-879-6800
	わんぱーくこうちアニマルランド	781-8010	高知市桟橋通 6 丁目 9-1	088-832-0189
西　部	大方あかつき館（上林暁文学館）	789-1931	幡多郡黒潮町入野 6931-3	0880-43-2110
	海洋堂かっぱ館	786-0322	高岡郡四万十町打井川 685-1	0880-29-3678
	海洋堂ホビー館四万十	786-0322	高岡郡四万十町打井川 1458-1	0880-29-3355
	高知県立足摺海洋館	787-0450	土佐清水市三崎字今芝 4032	0880-85-0635
	四万十市郷土博物館	787-0000	四万十市中村 2356 為松公園内	0880-35-4096
	四万十町立美術館	786-0004	高岡郡四万十町茂串町 9-20	0880-22-5000
	ジョン万次郎資料館	787-0337	土佐清水市養老字 303	0880-82-3155
	宿毛市立坂本図書館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-2654
	宿毛市立宿毛歴史館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-5496
	津野町立図書館かわうそ館	785-0202	高岡郡津野町姫野々 433-2	0889-55-3001
	津野町立図書館虎太郎館	785-0501	高岡郡津野町力石 2870	0889-62-3555
	特定非営利活動法人黒潮実感センター	788-0343	幡多郡大月町柏島 1	0880-62-8022
	土佐清水ジオパーク推進協議会	787-0450	土佐清水市三崎字今芝 4032-2 竜串ビジターセンターうみのわ内	0880-87-9590
	中土佐町立美術館	789-1301	高岡郡中土佐町久礼 6584 ー 1	0889-52-4444
	林　一將（古渓城）	786-0002	高岡郡四万十町見付 665	0880-22-1654

こうちミュージアム ネットワーク通信 第19号　令和4(2022)年3月31日発行

■編　集　こうちミュージアムネットワーク幹事館

■事務局　高知県立高知城歴史博物館　■電話　088-871-1629　■http://www.kochi-mn.net